

取扱いの趣旨

尿管腫瘍は血流がほとんど存在せず、パルスドプラ法による血管の血流診断価値は小さい。したがって、尿管腫瘍に対する超音波検査のパルスドプラ法加算は原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】 《平成19年3月16日》

45 パルスドプラ法加算②（尿管腫瘍）

○ 取扱い

原則として、尿管腫瘍に対して超音波検査（断層撮影法）を施行する場合にパルスドプラ法加算は認められない。

○ 取扱いを定めた理由

尿管腫瘍は血流がほとんど存在せず、小さいので診断的価値が少ない。

○ 留意事項

原則として良性腫瘍では有用性は低いが、進行病変では診断的価値が高いことから、悪性腫瘍、血管病変では必要である場合がある。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）に対してパルスドプラ法加算を算定しているレセプト1万件当たり、条件（尿管腫瘍に対して超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）を施行する場合にパルスドプラ法加算を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、パルスドプラ法加算が
査定・返戻となった割合

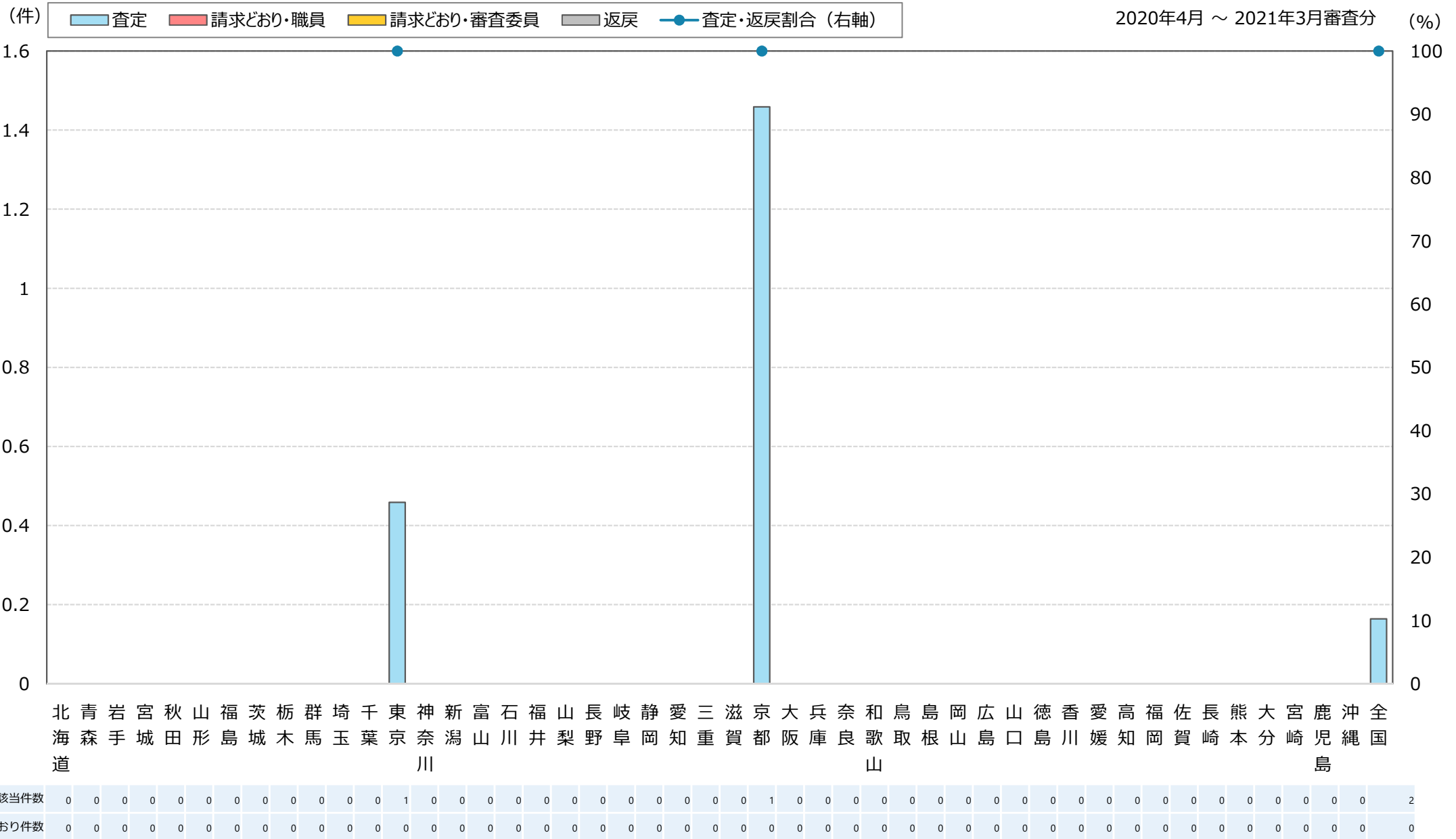
【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 100.00%
- 該当レセプトはすべて取扱いに基づく審査が行われている

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が低い支部	—	
請求どおり・職員	—	
請求どおり・審査委員	—	
該当件数（全国）	尿管腫瘍に対して超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）を施行する場合にパルスドプラ法加算を算定	2件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	2件
検証を必要とする審査	請求どおり	0件



【該当件数】尿管腫瘍に対して超音波検査（断層撮影法）（胸腹部）を施行する場合にパルスドプラ法加算を算定